

尾張津島天王祭 歴史と起源を考察する

吉田 由貴子さん著



津島天王祭は津島神社の夏祭り。津島市と愛西市から「車」と呼ばれる船を出し、疫病よけを祈願する。7月下旬に行うが今年は新型コロナウイルス対策で中止になった。

著者の吉田さんは愛西市出身。祭りの疑問を解こうと、多くの人々の助言を得て本書を著した。

津島からは5艘(そう)の巻きわら船が川を渡る。朝の祭りの先頭は愛西市の旧市江村の市江車だ。市江車には津島車にない鉾(ほこ)がある。解く鍵は京都・八坂神社の祇園祭にあった。

昔は疫神が人々の居住地にまん延し病気がはやると考えられた。京都では鉾を高く掲げ疫神を集め、鉾を奉納する。

尾張津島天王祭
歴史と起源を考察する
—市江を中心に—



吉田 由貴子

平安時代末期に起きた保元・平治の乱の首謀者のうち、市江庄を持つ藤原頼長が亡くなった後、市江村に災害や事件が起こったため、頼長の鎮魂を図ったのが天王祭に先行する市江祭だったのでと考察した。

A 5判、256頁。3000円(税別)。名古屋市昭和区長戸町4の40、ブイツーソリューション＝052(799)7391＝発行。